

# 令和7年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和8年2月12日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望
<p>(1)その子の未来を展望し、自ら学び自ら考える力の育成を図る。</p>	<p>①基礎的、基本的な力の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童のコミュニケーション力、情報活用能力、情報発信力の向上を目指す。</li> <li>・図書室利用、読書活動を推進し、家庭やボランティアと協力し、児童の読み取る力の向上を図る。</li> </ul>	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際理解・国際協力に関する学習を行い多文化共生・国際課と協力し、学習したことを市役所職員にむけて発表したり、市全体に働きかけたりした。</li> <li>・学校図書館司書による調べ方指導、単元に必要な図書資料準備を依頼し、国語やいそべ学習などの授業で利用し、取り組んだ。タブレットのみならず図書資料を使って落ち着いて学習できてる。</li> <li>・問題解決的な授業を心がけ子どもたちの思いに寄り添う授業づくりを行った。自ら課題をもち、どのように解決するよいかを考えて授業を進めた。また、体験的な学習を計画的に取り入れたことで体験に基づく思いや疑問が生まれ、すすんで課題を解決しようとする姿がみられた。</li> <li>・地域の協力により、大根の栽培を通して何を学びたいのかを個人が考え、必要なことを調べ、話し合った。児童は校区の特徴を知り、その良さを感じることができた。生活科の校区探検では地域の店や施設の協力により、働く人について考え地域に親しみをもった。</li> <li>・タブレット学習は「書く」作業が苦手な児童にとっては取り組みやすく、発表資料や新聞の作成に有効だった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リトアニアとの国際交流学習のプレゼン発表を聴く機会があり、代表の子たちの発表がとても素晴らしかった。</li> <li>・親以外の様々な社会人と触れ合う機会が多く、子ども達が自らの将来に向けて考えることができるような環境が準備できている。</li> </ul>
	<p>②自ら学び、自ら考える力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域教材や人材を生かした体験の場を設定し、楽しさや成就感を味わえる問題解決的な学習活動を通して、自らの問題を追究する力を育成する。</li> <li>・ひとつひとつの学びが、その子の未来にどうかかわるか意識し、言語活動やICT活用を重視した、児童が学び合う学習活動の展開に努める。</li> </ul>	A				
<p>(2)心豊かな思いやりのある児童の育成に努める。</p>	<p>①基本的な生活習慣の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団生活における基本的なルールやマナーを身につけ、よりよい学校づくりに向けて、積極的に取り組める児童を育成する。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年集会を開き、基本的なルールを全員に周知した。問題が起これば、どうしていけないのかを尋ね、学年全体で守っていこうとする意識を高めた。</li> <li>・「挨拶」「掃除」「時間」を意識して行動することで、集団生活における基本的なルールやマナーを身につけることができた。</li> <li>・子どもたちが互いを認め合い、尊重できるように、よいことをした人を紹介し合う時間を帰りの会の中に設けた。子どもたち同士の優しい声かけが増えている。</li> <li>・毎月の生活アンケートをもとに、個に寄り添い、抱えている不安や悩みを解決するために学年で連携しながら丁寧に対応した。</li> <li>・むくろじ活動では下学年の子のことを考えて活動を計画した。授業で計画を立てる時間を設けると、さまざまなアイデアを出した。ペア学年に掃除の仕方を教えたり図工で作成した紙芝居を使って楽しませたりした。ボランティアや美化活動などの活動も加えてリーダーの育成につなげたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちいきカフェのこの活動には毎回16名ほどの子どもが自主的に参加し、来場者の食事の世話や小さい子へのゲームの世話などを指示されずに主体的に活動している姿に感動した。</li> <li>・挨拶、掃除、時間は守れている学年とそうでない学年がはっきり分かる。守れていないのはなぜか。集団生活のルールや他人を思いやる気持ちを学ぶ時間が必要だと思う。</li> <li>・個の問題を学年全体で考えることは今後も続けていってほしい。地域の方からは子どもよりも学校の先生が基本的なマナーがなっていないという話が開かれるため（特に挨拶）児童だけでなく児童のお手本になるよう学校全体で意識を高めてほしい。</li> </ul>
	<p>②個の尊重</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他人を思いやり、自らを律することができる児童の育成を目指し、一人一人が自己肯定感と自己有用感を味わえる学級経営を心掛ける。</li> </ul>	A				
	<p>③他人のためにすすんで行う活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・むくろじ活動（ボランティア活動、美化活動、低学年に教える活動）を推進し、思いやりのある児童を育成する。</li> <li>・学級、学校など集団に働きかけるリーダーを育成する。</li> </ul>	B				
<p>(3)開かれた学校づくりを推進し、家庭や地域と協力して児童の健全な育成に努める。</p>	<p>①地域連携組織の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年目を迎えるコミュニティ・スクールの充実を図る。地域学校協働本部の活動を推進する。</li> <li>・ユネスコスクールとしての活動の推進を図る。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みのCS企画があることにより、児童が夏休み中も孤立することなく過ごすことができた。</li> <li>・ニコニコ会、老人連合会、おやじの会、地域の方々の協力を得て教育活動を行った。授業内容の充実だけでなく、授業以外の場でも多くの体験をすることができ、子どもたちにとって貴重な機会となった。</li> <li>・総合的な学習で学んだことを、豊橋市役所や愛知県ユネスコスクール交流会などで発表する機会を設けた。全国規模の公募で行われる「ESD 大賞」で優秀賞を受賞した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CSサマースクールが少しでも子どもたちの居場所づくりに役立っているならうれしい。</li> <li>・地域連携に関して、一部の人だけでなく、広く理解をすすめる、力を貸していただく必要がある。</li> <li>・地域の協力が得られる磯辺小は他の学校の方からも「磯辺はすごいね」と良く声をかけられた。協働ということを考えた活動が増えるといい。</li> </ul>
<p>(4)教職員の和と信頼を大切に、教員としての力量向上に努める。</p>	<p>①チーム磯辺の資質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、地域、家庭からなるチーム磯辺が連携・協働し、楽しく、深い学びの実現を目指す。</li> <li>・教職員の専門性をいかした研修を推進し、授業力向上を図る。</li> <li>・郷土教材や地域人材を生かした体験学習の場を設け、問題解決的で持続可能なカリキュラムの開発を進める。</li> <li>・教育のICT化に伴い、機器の効果的な活用方法の開発を進める。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出前講座を保護者に公開することで、学校の教育活動について保護者の理解を深め、子どもたちの普段の様子を保護者に見てもらい機会となった。保護者会の時に出前講座での子どもの姿が話題にあがった。</li> <li>・学校訪問や授業研究会を利用し、よりよい授業を作るために授業案の検討を行うことで学び合うことができた。更に力を高めていくために、普段から授業を見合うことができるよう、もっと気軽に、積極的に声をかけ合えるようにしたい。</li> <li>・パワーポイントを活用した国語の授業でのリーフレットづくり、総合の授業でのプレゼンテーション資料づくりなど、積極的にICTを活用した。各学年が、どのようにICTを活用したか情報交換し、教師の力量向上につなげたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出前講座を保護者に公開することはとてもよかった。地域にも公開してもらえないだろうか。</li> <li>・学校と地域との温度差を感じる。カド/スツップの学習は、できれば高学年にも広げていただきたい。</li> <li>・先生方が健康であることはとても大切であり、子どもたちが安心して学習できる場になるとよいと思う。</li> </ul>

【自己評価】 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない

【総合評価】 自己評価をもとに上記のA・B・C・Dで評価

【関係者評価】 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない